

5月26日

主教カンタベリーのオーガスチン

Augustinus Cantuariensis

(?～605)

～初代カンタベリー大司教～

＜人名事典などでの別表記：アウグスティヌス＞

イギリスはもともと古代ローマ帝国に支配されていたために、2世紀にはイギリスにキリスト教が広まっていたと考えられています。記録には、3世紀終わりから4世紀初頭にかけてすでにイギリスでキリスト教が迫害されていたことが書かれています。しかし、5世紀中頃になって、アングロ・サクソン人が英国に渡ったことで、イギリスのキリスト教はほぼ壊滅状態に陥ってしまいました。

その当時の教皇グレゴリウス1世は、アングロ・サクソン人をキリスト教徒にするために、ベネディクト会士であり、ローマの聖アンドレアス修道院長であったオーガスチンを、約40人の修道士とともに宣教師としてゴールに遣わします。しかし、オーガスチンらの間にアングロ・サクソン人は残虐であり、彼らを迫害するに違いないといううわさが広まったため、オーガスチンはローマに帰ろうとします。しかしグレゴリーは「すでによいことを始めたのだから、万難を押しつけてこれを全うせよ」という激励の言葉を送ります。

そして597年、オーガスチン一行はイギリスのケントへと渡りました。

英国の王エゼルベルトはフランス王の娘、ベルタを王妃としてい



「カンタベリーの
アウグスティヌス」

ましたが、彼女はカトリック信者であり、その信仰を妨げないことが条件で嫁いでいました。オーガスチンらは彼女そして王の援助を受けます。その結果、数か月の後にキリスト教は公認され、数年後には王をはじめ数千人、数万人が洗礼を受けたそうです。

これを聞いた教皇グレゴリーはオーガスチンをカンタベリーの司教から、カンタベリー大司教管区の初代大司教に任命しました。オーガスチンはその後、聖ペテロ・聖パウロ合同修道院（のちの聖アウグスティヌス修道院）を設立します。

また彼は、新しい信者を司牧する際には過度な改革的手段を取らず、民族の伝統などを重んじました。さらに異教の祭礼や年中行事にもキリスト教的意義をつけて行うことを許すなど、寛容と忍耐をもってキリスト教を浸透させたといえます。

＜特禱＞

信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教カンタベリーのオーガスチンを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン